

## 八反地出水（はったんじですい）

位置図



八反地出水は、高松市東山崎町の琴電長尾線水田駅から 120mほど南東に位置し、静かな居住地域の中で清水が湧き出ています。

県内には、弘法大師「空海」が導いて湧き出たとされる出水が多くありますが、ここもその一つであり、「弘法の泉」とも言われ、その昔、多くの茶人が茶の湯として好んで利用したと伝えられています。

案内板には、平安時代の弘仁元年（810年）に弘法大師が久米寺参拝のおり、付近の庵に休憩で立ち寄り、その時、庵主から「この地は水が乏しく、思うようなご接待もできません」と話したところ、弘法大師はその近辺を歩き、持っていたしゃくじょう錫杖でトントンと突いて「このところを掘りなされ」と言われ、村人と共にその場所を掘ると、たちまち滾々と清水が湧き出てきたので、村人は驚き弘法大師の尊さを感じたそうです。そして村人が集まり竹杭を打ち込んで出水を囲んだと、その由来が紹介されています。

今では、みつはのめのかみ罔象女神という日本書紀に登場する庶民に身近な水の神様が祀られ、澄んだ水には鯉が悠々と泳いでいます。

出水は、時代の変化とともに石やコンクリートで囲われましたが、居住空間に現存する貴重な出水として、地域の八反地自治会がこの良好な環境を守っています。



八反地出水



出水に祀られた水神